

2022（令和4）年度 前期 京都大学 入試問題 文系 第1問 解答例

*1行は約25文字（＋句読点などの記号）。20字程度とすべきだと主張する人もいる。

問一

現代日本の若い世代が自国の古典芸術には明らかに無知であり、西洋の古典芸術なら知っているという残酷な現実を前にすると、もはや前者を伝統とは呼べないということ。

- *「現実が残酷」であることの具体例。そこはきちんと解答化すること。ただし、後の筆者の主張からも明らかなように、それを「嘆いたって、はじまらない～むしろけっこうだと思う」とあるので、通俗的な「危機意識」などを書かないようにしよう。
- *「どっちがこれからの世代に受けつがれる伝統だか分からなくなってきました」というのは、よくあるもののたとえ（比喻）。「どっちが親でどっちが子どもか分からない」などの表現も「とうてい親と呼ぶに値しない」の意で、文字通りに受け取る人はいない。実際、「ヨーロッパの古典芸術」を「日本の伝統」として「継承」することは不可能である。

問二

古典芸術について失われたものが大きいからこそ、それへの悔いと空虚の念を活力へと逆転させ、失われたもの以上に優れた芸術を自分が創造し、それを伝統継承にまで高めるといふ、図々しいほどの気概が望ましいということ。

- *二段落先の「(そのような)不逞な気魄(にこそ、伝統継承の直流がある)」にまで言及したい。「不逞」は、「従順でない、勝手にけしからぬ、ずうずうしい」などの意。それくらいでないといけない、それがかえって望ましい、という逆説を解答化する。

問三

筆者は、日本の誤った伝統意識を覆すため、伝統に囚われず、無心の視点で古典を見ようと用心していながら、神妙に石庭を凝視しすぎたことを、実に不注意だったと感じたから。

- *「どうもアブナイ」と「筆者が言う」理由であるから、解答の結びの表現は「とても不注意だったと感じたから。」といった、心理的表現への置換が必要である。もちろん単なる置換だけでは「理由」説明として不十分なので、根本的な理由をその前に書いておくこと。
- *筆者は、「伝統主義者」（ならびに、それに追随する一般人）の「まちがった伝統意識をくつがえすため」という目的を持つので、「インだけだ」「なんだ、タカイ」という「文化的に根こぎにされてしまった人間」と同程度の意識にはない。つまり、「裸の王様を見た子ども」とは水準が違う。したがって、筆者自身の意識を「単純素朴な価値判断」とするのは誤りである。これは筆者の「アブナイ」ところを救ってくれただけである。

問四 ＊文系のみ

文化的根底を失った近代の人間の空しさと惨めさを露呈するほどに即物的で単純素朴な価値判断によって、平気で無雑作な気分で対してもなお、強く感銘を与え、精神的動揺をもたらすのが、真に厳しい芸術の働きであるということ。

＊出題者は、あえて「芸術の力であり」に傍線部を限定し、並列項の「伝統の本質なので」を傍線から外している。したがって、その解答として「伝統（の本質）」への言及はしないこと。

＊文系問題であるから、「それこそ」「力」、「打ってくる」「ビリビリ」などの表現ニュアンスをできるかぎり正確に置換する表現力が、他の設問以上に問われるであろう。なお、古文ではないのだから、『こそ』は訳さなくてよい」などですまさないように。

問五

ほんとうの芸術家は、囚われない新しい視点で伝統を直視し、自身が古典芸術よりも優れた、誰もが感動し動揺する作品を作り、それを近代の人間文化の伝統へと高めようとする気概を持つ。したがって、伝統主義者の賛美する多数の古典芸術には権威も価値も認めず、興味も持たない者である。

＊傍線部自体の「美に絶望し退屈している者」という解答要素は記述できているであろうか。ここは小林秀雄の具体的なエピソードをどう一般化するかということでもある。

＊ここでも、「イシだけだ」「なんだ、タカイ」という「文化的に根こぎにされてしまった人間」たちの「単純素朴な価値判断」と「ほんとうの芸術家」とを同列視しないように。